

(学年) 第2学年, (教科・科目) 家庭科・家庭基礎

個別学習

(単元) 栄養バランスのよい食事

(本時のねらい)

一日の献立を考え、何をどれだけ食べたら良いのか計算する。日本人の食事摂取基準や食品群別摂取量のめやすを見ながら、年代や年齢によって必要とされる栄養が異なることを理解する。

(ICT活用方法)

生徒が作成した一日分の献立が、食品群別の摂取量の基準に照らしてどのようなバランスになるかを視覚的に知るために、一人一台端末の表計算ソフトを活用する。基準量からの過不足が瞬時に得られることで、改善すべき点がよくわかり、それをグラフ化したり、電子黒板で全体に共有したりすることで効果的に学習することができる。

(本時の展開)

時間	学習活動	指導事項	I C T活用方法
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> 前時の復習 本時の目標を知る 	<ul style="list-style-type: none"> 前時に作成した献立表の確認 	
展開 35分	<ul style="list-style-type: none"> 入力ファイルを自分の一人一台端末に取り込む。 自分の献立の摂取量の数値を食品群別に入力する。 過不足を知り献立を改善し、グラフ化してバランスを知る。 他の人の献立表を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 献立入力表の配信 例を示しながら入力方法を知らせる。 食品群別の食材表を確認させる。 工夫できている点やさらに改善できる点を考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 教育クラウドプラットフォームを使って事前に数式を作成した献立入力表を送信し、一人一台端末にダウンロードさせる。 入力の例を電子黒板で提示する。 合計・過不足から改善案を立てる方法を電子黒板で提示する。 電子黒板に数名の献立表を提示する。ペン機能で気づかせたいところを強調する。

	・自分の献立を完成させる	・例示された献立を参考にしてもよいことを伝える。	
まとめ 10分	・自己評価や感想を入力し、保存して送信提出する。		・教育クラウドプラットフォームを利用して送信させる。

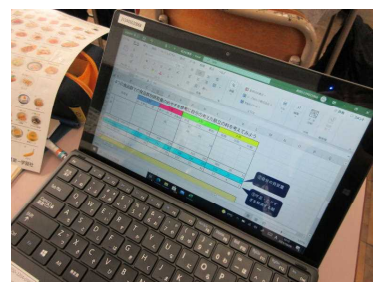
(授業の様子)



表計算ファイルの取り込み



摂取量の入力



事前に作成した教材

(生徒の反応と課題，改善を要する点)

生徒個々に一人一台端末を使用できるようになり，コンピュータ室に移動しなくても生徒各自の献立作成学習を行えるようになった。表計算アプリケーションを使って，合計・過不足・グラフ表示などが効率的に行えるので，細かい計算作業につまづくことなく意欲的に学習に取り組むことができる。

生徒自身が試行錯誤した後で，他の人の例や，教師側の提案，他の年齢層の献立例などを電子黒板で見られるのは，関心や理解を深めるために有効だと感じた。

教科「情報」の学習内容とリンクしていたため，生徒は表計算ソフトをスムーズに操作できていた。日常生活の中でも健康な食生活のために様々なアプリケーションが普及している。その内容を理解してよりよい生活を送ることができる知識と技術を身につけられるよう，今後も教科間で連携しながらICT機器を活用していきたい。